

派遣先所属 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課埋蔵文化財担当
氏 名 伴瀬 宗一 (ばんせ そういち)
派遣期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の生涯学習文化課では主に復興事業に伴う埋蔵文化財の取り扱いに関する業務を行っています。震災により沿岸部の家屋は壊滅的な打撃を受け、また道路・鉄道などの公共インフラも甚大な被害を受けました。それら住宅の復興や新たに三陸道など道路の新設が急がれています。震災から5年8ヶ月が過ぎ、まだまだ充分とはいえないまでも、住宅については大分落ち着いてきました。三陸道においては、用地買収が終了したものは着実に進行しています。私のような岩手県における埋蔵文化財にかかる専門職員の派遣は、本年度を持って終了となりますが、これも復旧・復興が進んだ証ともいえるのではないのでしょうか。

私の具体的な業務内容は、ひとつに国や県の復興事業に伴う遺跡の分布調査と試掘調査、さらに県内市町村が担当する復興事業のうち、支援依頼のあったものの試掘調査や本調査などです。ふたつめは、国や県の復興事業に伴う本発掘とその発掘調査の成果を示す発掘報告書の作成です。

これまで実施した本発掘は、岩手県最北部の洋野町にある南川尻遺跡など4件、試掘はやはり県北を中心に4件、このうち試掘から本発掘となったケース1件を含みます。



発掘調査風景 洋野町 サンニヤI遺跡

私は2年前に宮城県に同じような業務内容で派遣されていました。そこでは、発掘調査の作業員さんとして地元の方々、特に被災され仮設生活を余儀なくされている方々と一緒に発掘してきました。その点では、地元の被災された方と接する機会は割りとたくさんありました。

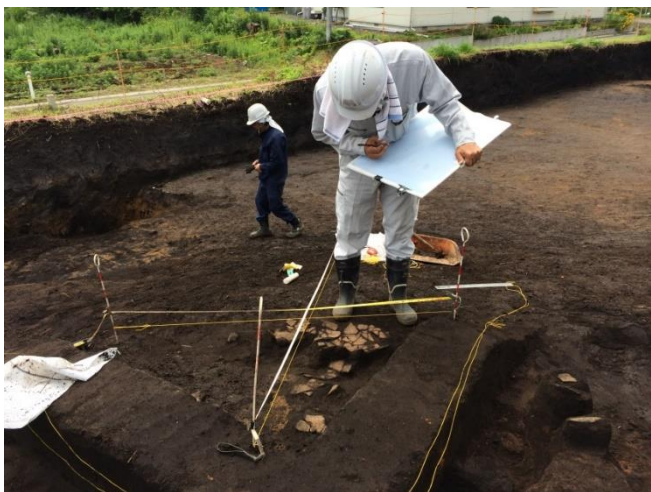
今回はそのような機会が宮城県のときと著しく減ったと思います。理由のひとつは、被害状況が宮城県とは異なることがあげられます。東日本大震災の被害全体の三分の二は宮城県に集中しています。岩手県における大きな被害があった地域も宮城県に近い県南部から中央部にかけてのリアス式地形に集中します。それに比べて、私が主に担当した県北地域は被災された方の数が比

較的少ないという状況があります。

いまひとつは、両県の発掘方式が異なることによるものです。宮城県は本発掘を外部に委託せず県直営で実施します。一方岩手県では、原則的に本発掘は県の管轄の財団に委託します。つまり、私のような岩手県教育委員会に派遣されているものは、本発掘に携わることはほとんどなく、自ずと地元作業員さんと接する機会が限られてしまいます。ただし、例外的に本発掘を4件やっています。これは、面積が狭小でかつ緊急を要している場合に限られます。ただこの時はかなり少数ですが、地元の作業員さんたちとの交流がもてます。

私は埋蔵文化財担当として復興支援に来ているのですが、さて、私が担当している業務がどれほど復旧・復興に寄与しているのかとなりますと、目に見えてこれだと言い切れないのが実情だと思います。それでも、最近ある機会に復旧・復興を目に見える形で知ることができました。宮城県派遣時に気仙沼市で発掘調査を担当したのですが、最近その場所を訪れる機会がありました。事業の目的は防災集団移転に伴う造成だったのですが、地形的にはどこをどうすると宅地になるのかと思われるほど、険しい場所でした。それが2年後には、立派なアクセス道路ができ、住宅も立ち並んでいました。もちろん新しい家ばかりなのですが、それでも三輪車や自転車が垣間見えて生活感が漂っていました。

わたし達の仕事は、その時に成果を見ることはできません。ですが何年後かには成果を見ることが出来ます。目的を達したということをおとから知ることは、それはそれで感慨はひとしおです。



遺跡の実測風景（発掘調査）山田町 桑田Ⅶ遺跡

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

岩手県北部域においては現在、三陸道建設が復旧・復興のメイン事業になっています。三陸道は単なる道路の新設という意味にとどまりません。8月末に東北を襲った台風10号の猛威を見れば歴然としています。道路が寸断されるというのは死活問題です。道路整備が急がれる所以です。

一方で、埋蔵文化財の発掘調査は地域にまた違った効果をもたらしています。それは地域アイデンティティーとでも申しましょうか、地元の皆さんが自分たちの地域について考えるいい機会になったということです。遺跡の現地説明会には大勢の地元の方がいらっしやって、自分の住んでいる場所にむかしも人が住んでいたことに、ずいぶんと感激されます。地元の皆さんが古くからずっと住んでいるというのも一因かとも思われます。

死活問題である道路は大切であることは間違いありません。しかし、地域の歴史を知り、自らに自負を持つということも同じくらい大切なことだと思います。今後も埋蔵文化財の調査と復旧・復興を両立し、スピード感を持って取り組んでいきたいと思ひます。



岩手県職員と岩手県派遣職員